

グループ討議 課題

テーマ：機関リポジトリというものを知らなかった人間が担当者になったらどうしたらよいのか

グループ名 [IG]

2018年度機関リポジトリ新任担当者研修

JPCOAR オープンアクセスリポジトリ推進協会



なぜこの課題にしたか

- 1.経緯は様々だが、メンバーの多くがリポジトリをよく分かっていない状況であり、一番の悩みは何をすればいいか分からないということだったため。
- 2.研修後に所属機関に戻ったときに、リポジトリを進めるにはどうすればいいか、立場や役職が違いう中でどこから手をつけるべきか方向性を考えてみたいと話題になったため。

具体的な解決策

1. 新任担当者研修に参加する。

理由

- ・今まさに動き始めたプロジェクトの為に習熟している人が同じ機関の中にいないことも多く、初めから研修に参加したほうが効率的で効果があるから
- ・機関の状況などによって対応や選択が変わってくる為、個人や機関だけの判断で行うことが難しく、確定的な知識よりも相談できるコミュニティを手に入れることが重要であるから

具体的な解決策

1. 新任担当者研修に参加する。

効果

- ・マニュアルやネットで調べてもよく分からなかった部分が掴めてくる。
- ・実務をやっていくうえのヒントがもらえる
(まったく同じ状況はほぼ無い事、状況によってリポジトリの運営方法が異なってくることが分かる)
- ・同じように困っている人との繋がりや、困ったときに質問を投げかけられる場が手に入る。

具体的な解決策

2.リポジトリを受け入れやすい環境を作る

理由

- ・周囲に理解者がいない場合、そのままでは先に進まないから
- ・先に進まないだけでなく、担当者もやる気を失ってしまうから

進め方の一例としての具体例、理由、効果
(環境によって方法は変わってくるため)

- ①リポジトリに登録しやすい論文等を探す
(1件でもいいので登録し、既に動いているプロジェクトであるとアピールできるようにする)

②リポジトリについての周知を行い賛同者を探す
(アピール対象: 図書館員、先生、職員、生徒
先生だけでなく、担当者以外の図書館職員にも。

※段階を踏んで説明する※

受動的なアピール(労力の少ない方法から)



(ポスター、カウンターでの説明、
会議で時間をもらう等、興味を引く)

能動的なアピール

(説明会、リポジトリ業務への協力等)

③②で探した先生、職員とリポジトリに上げられそ
うな論文を増やし、内容を充実させる

業務を行いやすく、長く続けられるようになる！